

## 香川高等専門学校自己点検評価

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
①高等専門学校の目的に関する事項	○高等専門学校の目的(高等専門学校の使命, 教育研究活動を実施する上での基本方針, 及び, 養成しようとする人材像を含めた, 達成しようとしている基本的な成果等)が明確に定められており, その内容が, 学校教育法に規定された, 高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであること。また, 学科及び専攻科ごとの目的が明確に定められていること。	●高等専門学校の目的が, それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ, その内容が, 学校教育法第115条に規定された, 高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また, 学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。	本校の目的, 学科及び専攻科の目的は学則に規定するとともに, 学校としての教育目的, 学科及び専攻科ごとの学習・教育目標, 育成しようとする技術者像を明確に定めている。また, 本校の目的, 教育理念等は, 高等専門学校創設の趣旨及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて制定していることから, 学校教育法第115条に規定された目的に適合する。	3	現状分析のとおり, 評価基準を満たしている。	特になし。	目的, 目標の表記の仕方が, 資料により異なっている。	平成30年度改組に向けて平成28年度中に統一する。
	○目的が, 学校の構成員に周知されているとともに, 社会に公表されていること。	●目的が, 学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。  ●目的が, 社会に広く公表されているか。	本校の教育目的, 学習・教育目標は, 教職員及び学生に対して配布する出版物, ウェブサイト等さまざまな方法で周知している。また, 教育目的の理解度を把握するために, 非常勤講師を含む全教職員及び本科2, 4年生, 専攻科1年生を対象にアンケート調査を実施し, 周知徹底を図っている。  本校が作成する多くの出版物やウェブサイトに, 教育目的, 学習・教育目標を掲載し, 中学生や保護者などに対しては学校案内, 募集要項を配布し積極的に説明している。また, 県内中学校をはじめ就職先企業や進学先の大学等には学校要覧を配布している。 以上のことから, 本校の目的は, 社会に対して広く公表されている。	3	現状分析のとおり, 評価基準を満たしている。	ホームページだけでなく, 双方向型ネットワーク(ICTオープンキャンパス)を開設し, 広く情報発信している。	目的, 目標の周知度を高める必要がある。	学生が携帯できる周知用グッズを作成する。

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
②教育組織(実施体制)に関する事項	○学校の教育に係る基本的な組織構成(学科, 専攻科及びその他の組織)が, 教育の目的に照らして適切なものであること。	<p>●学科の構成が, 教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。</p> <p>●専攻科を設置している場合には, 専攻科の構成が, 教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。</p> <p>●全学的なセンター等を設置している場合には, それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。</p>	<p>本校の使命を達成するために各学科は教育目的を定めており, それに基づいた教育内容を実現するために教育課程を編成している。また, 学生の入学定員も適切であり, 高等専門学校設置基準の規定に適合している。教員配置も, 本校の使命にある「創造力に富む実践的な技術者を育成する」ために適切な配置となっている。</p> <p>本校専攻科は創造工学専攻と電子情報通信工学専攻からなり, それぞれの専攻において教育目的を定めている。教育目的を達成するためにそれぞれの専攻科で教育課程を設定している。教育課程の内容は, 修業年限2年間で準学士課程よりも高度な内容を教授し研究を指導する内容としており, 学校教育法の規定に適合している。</p> <p>「豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成」という本校の使命に対応して情報基盤センターを設置し, 全学的に活用している。</p> <p>「地域における知の拠点としての社会貢献」については地域イノベーションセンター, みらい技術共同教育センターをそれぞれのキャンパスにおいて活用している。</p> <p>以上の事から各センター等は全学的に利用され, 教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。</p>	3	現状分析のとおり, 評価基準を満たしている。	小中学生向け理科教育のためのみらい技術共同教育センターと地域企業との連携を図るための地域イノベーションセンターを設置し, 多方面の活動をしている。キャリアサポートセンターを設置し, 教育目標の一つであるコミュニケーション能力の育成を目的とした各種企画運営している。	科学技術の基盤を確保しつつ産業構造の変化に敏速に対応できる体制に再編することが必要である。また, 複合領域の教育研究に対応できるコース制の導入が必要である。加えて, ソフトウェア開発技術者の人材不足に対応するためソフト教育に特化するカリキュラムを用意する必要がある。	コース制を導入し, 高松キャンパスには機械, 電気, 建設, 物質化学の4分野コースを配置する。詫間キャンパスは電子情報通信分野に特化しつつ, 情報コース内にソフト教育に特化するカリキュラムを用意する。
	○教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され, 機能していること。	<p>●教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され, 教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。</p> <p>●一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が, 機能的に行われているか。</p> <p>●教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。</p>	<p>教務委員会を設置し, 教務に関することについて審議を行っている。内容によっては, 事前に学科会議あるいは専攻科会議で検討を行い, そこで策定された案を教務委員会で審議し決定している。教務委員会の審議内容と結果は, 企画運営会議に報告され審議決定している。また, 企画評価室会議, FD委員会, 点検評価委員会, 外部評価委員会などにより教育体制の見直しを定期的に行い, 各委員会議事録や年報により各学科・教員に報告している。</p> <p>以上のことから, 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制を整備し, 教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っている。</p> <p>カリキュラムを検討するためのWG等で積極的な意見交換を行い議論しており, 一般教員と専門教員との連携によって継続的な見直しを行っている。教育実践シンポジウムを定期的開催し, 一般科目・専門科目の教員が話題を提供し, それらに基づき討論を行っている。</p> <p>以上のことから, 一般科目及び専門科目を担当する教員の連携を機能的に行っている。</p> <p>学習や教育課程に関することは教務主事が中心となる教務委員会, 生活指導, 授業料免除, 課外活動に関することについては, 学生主事が中心となる学生委員会や専攻長が中心となる専攻委員会, 寮生活には, 寮務主事が中心となる寮務委員会がクラス担任と連携しながら対応している。学級担任のしおりを年度初めに配布し, 学級担任連絡事項をメールで配信す等, 学級担任の必要な業務の伝達を行い学級担任の教育活動を支援している。キャリアサポートセンターを設置し, 学級担任に適切な支援をしている。</p>	3	現状分析のとおり, 評価基準を満たしている。	理系科目と専門科目の連携WGを設けた。数学科教員の専門学科担当制を平成28年度実施に向けて検討している。	数学と物理の連携が必要である。	数学と物理の連携のためのWGを発足させた。

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
③教員及び教育支援者等に関する事項	○教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。	<p>●教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。</p> <p>●教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。</p> <p>●専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。</p> <p>●学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。</p>	<p>一般科目を担当する専任教員は、高等専門学校設置基準で定められている基準29名を上回る37名によって構成され、さらに26名の非常勤教員が一般科目の教育に携わっている。教育目標を達成するために適切に設定したカリキュラムを有しており、その実施に必要な専門分野の教員を配置している。また一般科目の教員と専門科目の教員間での協議会などを通じて、教育の連携を図っている。 以上より、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。</p> <p>高等専門学校設置基準で定められている基準50名を上回る85名によって構成され、さらに16名の非常勤教員が専門科目の教育に携わっている。教育目的を達成するために設定したカリキュラムを有し、各科目を担当するにふさわしい専門分野を有する専任教員および非常勤教員を適切に配置している。 以上より、教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されている。</p> <p>専攻科は教育目的が達成されるようなカリキュラムが組み立てられており、また専攻科は学位授与機構の特例適用認定を受けており、十分な実績を持つ教員を適切に配置している。 以上により、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業担当教員が適切に配置されている。</p> <p>一般公募による採用選考を適切に実施することにより、教員組織の均衡ある年齢構成に配慮しつつ、女性教員や多様な経歴を有する教員を確保に努めている。多くの研修や教員同士の相互授業参観、他高専・技術科学大学との人事交流などを通じて、教員や教員組織の研究・教育能力の向上を図っている。 以上より、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	特になし。	女性教職員比率が低い。	女性限定公募を行い、適任者がいないか、あるいは、応募がなければ女性優先採用を行う。
	○全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われ、その結果を教員組織の見直し等に反映させていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、適切な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。	<p>●全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。</p> <p>●教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。</p>	<p>教員の教育活動に対する定期的な評価として、オープン授業、授業アンケートや自己評価などの取り組みをしており、これらの結果は該当教員に適切にフィードバックしている。 以上より、全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価を行っている。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組を行っている。</p> <p>専任教員の採用は原則として公募によって行っており、採用情報は適切な手段によって広く内外に周知している。 専任教員の昇任においては、高等専門学校設置基準に示された職位に応じた資格を有しており、かつ、研究や教育に関する実績を考慮している。研究や教育、校務や地域貢献を含む学内外の貢献度を点数化することによって、昇任の客観的な指標の一つとしている。 以上より、教員の採用や昇格等に関する基準や規定は明確に定められ、適切に運用している。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	特になし。	特になし。	
	○教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置されていること。	●学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。	<p>事務職員、技術職員を、事務局、技術教育支援センター、図書館、情報基盤センターに適切に配置している。 以上により、学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等を適切に配置している。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	特になし。	特になし。	

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
④学生の受入に関する事項	○教育の目的に沿って、求める学生像及び入学選抜の基本方針等の入学受入方針(アドミッション・ポリシー)が明確に定められ、公表、周知されていること。	●教育の目的に沿って、求める学生像及び入学選抜の基本方針等の入学受入方針(アドミッション・ポリシー)が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。	香川高等専門学校創立に伴い新しいアドミッション・ポリシーを明確に定め、準学士課程の入学学生募集要項、編入学生募集要項並びに専攻科学生募集要項に分かり易く掲載している。教職員に対しては広報誌の配布や本校Webサイトにより周知している。入学説明会・高校説明会や中学校・学習塾訪問により近隣県下の指導教員・学習塾関係者・中学生・保護者への周知を積極的に行っている。学校のWebサイト、学生募集要項や広報誌である学校案内に記載し、将来の学生を含め社会に広く公表している。	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	特になし。	学生募集要項に入学受入方針(アドミッション・ポリシー)を構成する「求める学生像」は明文化されているが、「入学選抜の基本方針」については明文化されていない。「求める学生像」にコミュニケーション能力に関する記述が必要である。	「入学選抜の基本方針」を平成29年度募集要項に明記する。学科再編に併せて「求める学生像」にコミュニケーション能力に関する記述を追加する。
	○入学者の選抜が、入学受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な方法で実施され、機能していること。	●入学受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学選抜が適切に実施されているか。  ●入学受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学選抜の改善に役立てているか。	準学士課程の入学選抜、編入学生選抜並びに専攻科入学選抜の実施要項を明確に定め、アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法を採用している。 各入学選抜の実施要項に従って面接の問題・評定票・審査書を明確に定め、入試小委員会や専攻科委員会をへて実際の入学選抜を適切に実施している。  準学士課程の推薦選抜ではほぼ全員が卒業しており、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が行われている。学力選抜においては基礎学力が不足している学生を選抜しており、入試委員会において学科再編に併せて学力入試の内申点の重みを改善することと、面接を導入することの見直しを行っている。 専攻科課程では、修了学生全員が独立行政法人大学評価・学位授与機構の学位授与制度を利用した学位を有しており、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入を行っている。 以上より、入試小委員会・専攻科委員会においてアドミッション・ポリシーに沿った資質と学力が適切に評価されているか検証し、入学選抜方法の改善に役立てられている。	4	準学士課程においては就職率100%を常時達成している。入試倍率も高く維持している。専攻科課程においては修了学生全員が学位を授与されている。	準学士課程の入学後の追跡調査により入学受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿った学生の受入が実際に行われているか検証を行い、その結果、入学試験委員会で学科再編に併せて学力選抜の改善を予定しており、入学選抜の改善に役立てている。	特になし。	
	○実入学数、入学定員と比較して適正な数となっていること。	●実入学数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学数との関係の適正化が図られているか。	本校の教育目標に沿った資質と学力を備えている学生を受け入れるためのアドミッション・ポリシーを明確に定めている。アドミッション・ポリシーは、学生募集要項、学校案内、本校Webサイトに掲載し本校の教職員に周知している。また、入学募集説明会、中学校訪問・学習塾訪問、高校説明会への積極的な参加や近隣県下中学校、高等学校、企業等への募集要項や学校案内(広報誌)の配布、学校訪問、Webサイトを通じて、中学生や保護者を含め社会に広く公表している。 入学者の選抜は準学士課程並びに専攻科課程とも推薦および学力試験で行っており、アドミッション・ポリシーに対応した選抜方法により入学を選抜している。 学力選抜と推薦選抜により入学した学生の追跡調査により、アドミッション・ポリシーに沿った学生が入学しているかの検証を行い、入学選抜方法等の改善に努めている。 実入学数については、入学数の推移資料に示されるように、準学士課程ならびに専攻科課程において定員に比して過不足無い優秀な学生が入学している。	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	特になし。	特になし。	

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
⑤教育内容及び方法に関する事項	(準学士課程)							
	○教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準が適切であること。	<p>●教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。</p> <p>●教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。</p>	<p>教育課程の編成は、各学科とも楔型の科目配置としており、本校の卒業時に身に付けるべき、学力や資質・能力に照らした卒業時の到達目標を踏まえて、各学年の修了時の到達目標に沿うように各学年に適切に配置している。また、全ての一般教育科目及び専門教育科目を学習教育目標の各項目と対応するように配置し、全体として準学士課程の学習教育目標を達成できる教育課程としている。</p>	4	<p>本校では教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等への配慮が優れている。</p>	<p>学生の多様なニーズへの対応がなされている。</p>	<p>教育課程と学習教育目標の関係が整理しきれていない。</p>	<p>平成28年度に整理を行う。</p>
	○教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	<p>●教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。</p> <p>●教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。</p> <p>●創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。</p>	<p>すべての学科において、演習、実験、実習が行われている科目の割合は20%以上を占めている。これらの形態は学習目標に応じて配置している。また、教育内容に応じて学習指導法の工夫を行っている。</p>	3	<p>現状分析のとおり、評価基準を満たしている。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	
	○豊かな人間性の涵養に関する取組が適切に行われていること。	<p>●教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。</p>	<p>一般教育では芸術を除くすべての科目に専任教員を配置して、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮している。また、特別活動、課外活動等においても、様々な活動を通じて豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮している。</p>	3	<p>現状分析のとおり、評価基準を満たしている。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	
	○成績評価や単位認定、進級・卒業認定が適切であり、有効なものとなっていること。	<p>●成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。</p>	<p>成績評価や進級・卒業認定規定は学生便覧やホームページで公開され、学生に周知している。規定に従い、進級認定会議、卒業認定会議で審議の上、進級及び卒業を決定する。</p>	3	<p>現状分析のとおり、評価基準を満たしている。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
⑤教育内容及び方法に関する事項	(専攻科課程)							
	○教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準が適切であること。	<p>●教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。</p> <p>●教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。</p> <p>●教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。</p>	<p>学習教育目標を達成するために、専門知識と技術が段階的に修得できるよう傾斜型に授業科目を適切に配置し、授業内容は全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっている。創造工学専攻においては、準学士課程の専門学科との連続性が保証できるよう、コース毎にコース必修科目とコース選択必修科目またはコース推奨科目を定めている。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	特になし。	教育課程と学習教育目標の関係が整理しきれていない。	平成28年度に整理を行う。
	○教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	<p>●教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。</p> <p>●教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。</p> <p>●創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。</p>	<p>演習、実験、実習が行われている科目の割合は20%以上を占めている。これらの形態は学習目標に応じて配置している。また、教育内容に応じて学習指導法の工夫を行っている。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	特になし。	特になし。	
	○教養教育や研究指導が教育の目的に照らして適切に行われていること。	●教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	<p>教養科目は必修科目2科目を含め4科目を設置している。また、特別研究においては大学(学士課程)と同等の研究指導を行っている。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	特になし。	特になし。	
	○成績評価や単位認定、修了認定が適切であり、有効なものとなっていること。	●成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。	<p>成績評価・単位認定規定や修了認定規定を組織として策定し、学生便覧に記載して学生に配布し周知している。また、これらの規定に従って、各科目の成績評価、単位認定をシラバスに記載された方法により行い、修了認定会議で修了認定を行っている。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	特になし。	特になし。	

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
⑥教育の成果に関する事項	○教育の目的において意図している、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、教育の成果や効果が上がっていること。	<p>●高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。</p> <p>●各学年や卒業(修了)時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。</p> <p>●教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。</p> <p>●学生が行う学習達成度評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。</p> <p>●卒業(修了)生や進路先等の関係者から、卒業(修了)生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業(修了)後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。</p>	<p>本校の目的に沿って、学生が卒業及び修了時に身につけるべき学力や資質・能力を学習教育目標として定め、それらに割り当てられた授業科目及び実験・研究を各課程学年事及び各専攻毎に配置している。さらに、他の専門科目の履修が可能のように配慮する等、教育の高度化及び社会の要求に臨機応変に対応出来るようになっている。それらの達成状況は、教務委員会および専攻委員会にて把握するとともに、学生自身による確認についても指導している。</p> <p>準学士課程の卒業研究、専攻科の特別研究では、研究活動の状況、卒業論文及び研究発表の内容をそれぞれの評価内容に応じた基準を設定し達成度を検証、評価している。</p> <p>修了生、卒業生、及び卒業生受け入れ企業を対象としたアンケートによりこれらの取組みの成果を確認している。</p>	3	分析結果が、現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	ほぼ全ての学生がその希望に応じて専門性を生かせる進路を選択できる環境と、ほぼ100%の就職及び進学率を実現している。	工学教育におけるきめ細かな取組みを低学年における教育に応用する。	数学科教員を専門学科担当制とするなど、低学年から、学生の教科理解を促すための、きめ細かな取組みを行う。

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
⑦学生支援等に関する事項	○学習を進める上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。	<p>●学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。</p> <p>●自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。</p> <p>●学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。</p> <p>●特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。</p> <p>●学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。</p>	<p>全学生に修学上のオリエンテーションを整備・充実している。学生の自主学習を進める上での相談・助言を行う体制も担任等を中心に全教員により整備し、機能している。</p> <p>学生相談室が、修学上の悩みのある学生と直接面談するだけでなく、該当教科担当の教員と学生との連携役を担いながら相談・助言のネットワークを構築している。</p> <p>以上のことから、学習を進める上でのガイダンスを整備し、適切に実施している。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制を整備し、機能している。</p> <p>各種自主的学習環境および厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等を整備し、効果的に利用している。</p> <p>全学科で開催される教育改善(プログラム改善)委員会において学生のニーズの大部分を集約していることに加えて、上記のように対話集会、意見箱の設置、授業における対話報告書など多岐に渡る手段で意見を汲み取っているため、学生のニーズは適切に把握している。</p> <p>特別な学習支援が必要な学生に対する学習支援体制を整備し、実施している。事前指導を行い、香川高専入学前の学校の教育目標と香川高専の教育目標とのギャップを埋め、スムーズに新しい環境に適用できるように配慮している。</p> <p>すべての学生の課外活動に対して管理組織、運営費および施設が整備され、適切な責任体制の下に機能している。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	課外活動支援のための特命教員を採用し、技術の向上に努めている。	各種ガイダンスの実施が各学科等の担当部署に任されている。	担当部署の連絡を密にする。
	○学生の生活や経済面並びに就職等に関する相談・助言、支援体制が整備され、機能していること。	<p>●学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。</p> <p>●特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。</p> <p>●学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。</p> <p>●就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。</p>	<p>学生の生活に関わる指導、相談、助言を行う体制について、担任、厚生補導委員会、および学生相談室により多面的に機能し、学生支援のネットワークを形成している。また、経済面に係る支援体制も充実しており、支援実績からも機能している。</p> <p>留学生に対して施設面や留学生担当教員の配置、学生のチューターなどの支援ネットワークを形成し、十分機能している。また、障害を持つ学生への支援体制も整備している。</p> <p>各個室にエアコンを設置し、快適な寮生活が送られている。近年、寮生は落ち着いた雰囲気でも生活しており、スポーツ大会など各種年間行事や、ゴミの分別・清掃などの日課いづれについても寮生主体に運営され、寮が集団生活の場として有効に機能している。</p> <p>「キャリア概論」、保護者懇談会など低学年のうちからキャリアサポートセンターを中心として全学科、全学年対象の進路指導を進める体制を整備し実施している。他高専に先駆け、本校独自のスケジュールダイアリーを製作し、学生の就活支援をしている。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	高専で初めての試みである本校独自のスケジュールダイアリーを作成し、進路指導に活用している。	特になし。	

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
⑧施設・設備に関する事項	○学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されていること。	<p>●学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。</p> <p>●教育内容、方法や学生のニーズを満たすICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。</p>	<p>最近の施設改修工事として、高松キャンパスでは平成22年度から平成26年度の間に管理部及び一般教育棟の内部改修工事を、詫間キャンパスでは平成21年度から平成25年度の間に第二学科棟及び第三学科棟を高度化再編にともなう内部改修および平成24年度に寄宿舎の耐震改修工事を行い、省エネルギーおよび安心・安全に配慮した耐震改修を実施し、共用スペース等の有効活用を図り、校内の環境保全、ユニバーサルデザインの導入により教育環境が大いに改善した。</p> <p>また、本校の教育・研究環境の充実のためには、維持保全および、施設整備事業を鋭意行っていくことが必要であり、設置後30年以上を経過している基幹設備の老朽化改善対応を計画的に実施しなければならない。</p> <p>これらの改善改修を計画的に実施するため、平成27年度に作成したキャンパスマスタープランに従って、施設整備事業に係る予算要求を行っていく。</p> <p>以上のことから、本校の施設・設備については、高等専門学校設置基準に定める基準を満たし、整備されており有効に活用され、バリアフリー化や環境面への配慮をしている。</p> <p>インターネット利用を含め、学生のネットワーク利用状況は良い。また、学生寮にもネットワークを整備しており、学生の需要を満たしている。ネットワークのセキュリティを確保するために、スパムフィルターやアンチウィルスソフトを導入するなど、ソフトウェア面からの対策は充足している。学生・教職員のニーズを満たす点では、校内LAN、外部接続とも十分である。</p> <p>以上のことから、情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用している。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	教室だけでなく、工場もエアコンを設置することにより、授業環境を整えている。	バリアフリー化が100%完了していない。	バリアフリー未対応の施設・設備が無いよう、さらなるバリアフリー化を進める。
	○図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。	●図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	<p>専門教員からの依頼で関係図書類を揃える一方で、学生の興味を持つ書籍に関しても取り入れるためのシステムを有しており、多くの学生・教職員が利用している。学生に専門以外の図書にも触れ合う機会として、ブックハンティングやコンクールを実施、教職員と学生による図書紹介を行っており、利用率を高めるための工夫をしている。</p> <p>図書システムにITを導入することで、専門図書の検索、文献複写の依頼・受付等の研究に関する補助的機能の向上、平日の開館時間の延長や土曜日の開館を行い時間外の利用ができる体制を有しており、利便性を高めている。図書館内にパソコン検索やAV機器コーナーも配置しており、図書館として十分な機能を発揮している。</p> <p>以上のことから、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を系統的に整備し、有効に活用している。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	特になし。	特になし。	

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
⑨教育の質の向上及び改善のためのシステム	○教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて改善・向上を図るための体制が整備され、取組が行われており、機能していること。	<p>●教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。</p> <p>●学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。</p> <p>●各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。</p> <p>●個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。</p> <p>●研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。</p>	<p>教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積と評価は教務委員会と専攻科委員会が主導し適切に実施している。企画評価室が各種委員会を統括して計画・実施・点検評価・改善を行い、外部評価委員会において外部からの評価もフィードバックできる体制を構築しており、適切に実施している。</p> <p>学生による授業評価アンケート、卒業生、修了生及び就職企業先等に対するアンケート、意見箱の設置など、様々な取組みを行い学校の構成員、学外関係者の意見を聴取している。その結果をもとに点検評価委員会で学内の視点で点検評価した事項を、学外有識者を交えた外部評価委員会と各専門学科主催の卒業生及び修了生との懇話会で学外の視点で点検評価した事項を基に自己点検報告書を作成している。 以上のことから、学校の構成員、学外関係者の意見の聴取を行っており、教育の状況に関する自己点検・自己評価を適切に行っている。</p> <p>自己点検・自己評価委員会の結果を受け、教務委員会、専攻科委員会をはじめとする各種委員会を中心とした教員間連絡ネットワーク組織をもって、教育の質の向上、改善に結びつけるシステムが整備・改善に結びつける運用を行っている。 以上のことから、教育の質の向上、改善に結びつけるシステムを整備し、具体的かつ継続的な方策を講じている。</p> <p>個々の教員は、学生の授業アンケートや活動報告書の自己評価による評価結果に基づいて、教育の質の向上を図っている。授業アンケートによる評価結果はWebサイトで公開している。さらに、毎年自己評価を行い、前年度と比較した改善状況を把握している。 以上のことから、十分な質の向上と継続的改善を行っており、その状況を学校として把握している。</p> <p>教員の研究や学生の学会発表などを積極的に行い、これらの成果を学生の卒業研究や特別研究に反映している。教員の教育方法等の研究活動により、授業の実施内容・方法の改善を行っている。 以上のことから、研究活動が教育の質の改善に十分寄与している。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	学生による授業アンケートを全科目で年2回実施しており、当該年度で授業改善の効果がフィードバックが可能である。	各教員のオフィスアワーの教員室入り口掲示、Web公開が行われていない。 卒業生・修了生に対するアンケート、就職先に対するアンケートの実施が必要である。	各教員のオフィスアワーのWeb公開を行う。 卒業生・修了生に対するアンケート、就職先に対するアンケートを実施する。
	○教員及び教育支援者等の資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。	<p>●ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。</p> <p>●教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。</p>	<p>ファカルティ・ディベロップメント(FD)は、FD委員会が中心となって実施している。FD活動として、FD委員会あるいは各部署でそれぞれ企画する全学的な活動、各組織での活動、個人での活動などを実施している。 平成27年度教育実践事例報告会では、全国高専中初めて理数系科目に大人数講義を導入した事例紹介を行い、次年度から社会系科目をはじめとする科目や詫間キャンパスでも実施を予定しており、FD活動が教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。 以上のことから、FDを組織として適切な方法で実施し、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。</p> <p>教育支援者等に対する研修等は、総務課および技術教育支援センターが中心となり、それぞれ規程に則り実施している。研修の成果は、資格の取得、特許の取得、研究費の獲得など、職員の資質の向上につながっている。 以上のことから教育支援者に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組みを適切に行っている。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	全国高専中初めて理数系科目に大人数講義を導入した。	大人数講義の教育効果を調査する必要がある。	学生による授業アンケートに大人数講義の教育効果の検証を可能とする項目を加える。

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
⑩研究活動に関する事項	○高等専門学校の目的に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究の目的に沿った活動の成果が上がっていること。	<p>●高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。</p> <p>●研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。</p> <p>●研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	<p>学校の目的を達成するため、校長を本部長とする地域人材開発本部人材開発本部を組織して研究活動を支援する体制としている。キャンパス内における取組みは、両キャンパスにセンターを設置して的確な活動推進を行えるようにしている。さらに外部に香川高専産業技術振興会を組織し、教育研究活動の支援と検証を行う体制としている。</p> <p>この取組みの結果、科研費等の外部資金の獲得、論文等の外部発信や知財権利化において増加傾向を維持してきた。また、学位授与機構の特例適用認定も専攻科全コースにおいて受けることができた。</p> <p>これらの研究活動については、校長裁量経費の報告書のほか、年報への詳細な業績報告を義務付けるとともに、シーズ発表会や産業技術振興会とのセミナーなどを通じて評価を受ける仕組みとなっている。</p>	3	分析結果が、現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	科研費の申請率が、全国高専の中でも上位グループに位置している。キャンパスを横断したグループを組んで研究活動を行っている。	特になし。	
⑪正規課程の学生以外に対する教育サービスに関する事項	○高等専門学校の目的に照らして、正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ、成果を上げていること。	<p>●高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。</p> <p>●サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。</p>	<p>本校の使命・目標に掲げられた「地域における知の拠点としての社会貢献」を目的とし、技術相談、公開講座、出前授業、地域協力等の取組みを毎年計画的に実施している。</p> <p>学校行事として、体験入学やオープンキャンパスを毎年計画的に実施し、多数の中学生、一般の参加を得ている。図書館の施設も規則を定めて一般開放されており、利用者も多く地域の文化向上に一役買っている。また、現代GP、大学改革推進事業終了後もほとんどの事業を継続実施している。</p> <p>以上のことから、正規課程の学生以外に対する教育サービスは適切且つ計画的に実施している。</p>	5	技術相談、公開講座、出前授業、地域協力等の取組み状況体験入学やオープンキャンパスの実施状況現代GP、大学改革推進事業終了後の事業継続以上の実績により特に優れていると判断した。	公開講座、出前授業、地域協力等の取組み、特に小中学生の理科学離れ対策事業は現代GP、大学改革推進事業終了後も運営費交付金によりほぼすべてに事業が継続されている。	技術相談など産業界に対する事業が、公開講座、出前授業、をはじめとする、主に小中学生を対象とする地域協力に比べて少ない。	今後、実績ある地域協力を地域連携へ、さらなる発展を図り、産業界に対する事業への展開に繋げる。
⑫国際交流に関する事項	○国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され、機能していること。	●国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され、機能しているか。	<p>国際交流活動を推進する全校組織として国際交流室を設置し、各学科1名の教員から構成している。事務部門は総務課・学務課・学生課が担当している。国際交流室にて具体的な活動を計画し、国際交流委員会の審議を経て活動を実施している。国際交流室会議を1～2か月に1回開催している。学生・教員の国際交流活動予算は、本校の国際交流経費、国際交流活動支援基金、高専機構本部からの支援金、ならびに学生支援機構の奨学金である。</p>	3	最近の他大学、高専の活動状況をみて、本校は水準に達していると判断される。	各学科の室員が業務分担を行い国際交流を推進している。学生に対する経費支援体制ができている。	特になし。	
	○国際交流活動を適切に実施し、成果が上げられていること。	●国際交流活動を適切に実施し、成果が上げられているか。	<p>海外の9大学及び1学部と学術交流協定を締結し、学生交流等に必要となる協定の実施細則を3校と締結した。協定校と国際シンポジウム等を開催し、学生および教職員を派遣して交流の活性化を図っている。これにより毎年延べ30～40人の学生が海外渡航を体験している。また、海外語学研修、国際理解教育、招聘講師による英語専門授業、留学生の地域交流活動支援を実施している。</p>	4	学術交流を主体とする学生交流・教員交流を協定校と継続的に実施しており、水準を超えていると考えられる。	協定校と共催で国際シンポジウム等を開催することで、本校学生の研究成果発表と国際経験の場を継続的に提供している。	参加できる教員が固定化され、活動に広がりが少ない。学生受入れの寮施設が少なく、相互の学生交流活動に限界がある。	多くの教員に積極的な参加を依頼する。

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
⑬財務に関する事項	○学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。</li> <li>●学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。</li> <li>●学校の目的を達成するために、外部の財務資源の活用策を策定し、実行しているか。</li> </ul>	<p>本校の校地、校舎、設備等は、法人化移行の際に国から承継を受けたことにより、十分に教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているとともに、その都度、施設等整備の充実を図り、必要な施設、設備を整備しており、債務の状況についても、貸借対照表を財務分析した結果、債務は過大ではない。</p> <p>運営費交付金及び施設費のほか、授業料、入学検定料、入学金等の本校の自己収入についても、安定した収入を確保している。</p> <p>また、科学研究費補助金等獲得に向け、校長裁量経費による積極的な教育研究支援を行うとともに、共同研究費及び受託研究費等受入のため、地域イノベーションセンターを中心とした活動により、申請、受入件数及び獲得、受入金額が増加傾向にある。</p> <p>各年度の予算に係る計画については、企画運営会議で審議し承認された学内予算配分方針に基づき適正に配分しており、学内予算配分通知書により教職員へ周知するとともに、財務会計システムにより予算配分額、執行済額及び残額の収支状況を一元管理していることから、過大な支出超過とはなっていない。</p> <p>また、校長裁量経費により、教育研究活動の活性化を図るための競争的環境を創出し、教育研究活動に対し、適切な資源配分を行っている。</p>	3	<p>現状分析のとおり、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有している。</p> <p>また、学校の目的を達成するために、外部資金獲得に向けた積極的な取り組みを行っている。</p>	<p>学校の目的を達成するための財源確保や予算の重点配分など、適正かつ効率的な予算の獲得及び執行に対する努力を行っている。</p> <p>また、外部資金獲得のための校長裁量経費の配分など、教育研究活動の活性化を図るとともに、外部資金の増加に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>運営費交付金等基本財源は確保されているものの、今後、科学研究費補助金等の競争的資金の獲得、寄附金、受託研究費、共同研究費等の受入件数を増加させることが必要である。また、地域企業等との連携をより積極的に進めるなど、より一層の外部資金獲得に向けた取組を行う必要がある。</p>	<p>校長裁量経費等の重点配分経費により、更なる教育研究活動の活性化や教育研究環境の整備充実を図る。</p>
	○学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。</li> <li>●収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。</li> <li>●学校の目的を達成するため、教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む)に対し、適切な資源配分がなされているか。</li> </ul>	<p>各年度の予算に係る計画については、企画運営会議で審議し承認された学内予算配分方針に基づき適正に配分しており、学内予算配分通知書により教職員へ周知するとともに、財務会計システムにより予算配分額、執行済額及び残額の収支状況を一元管理していることから、過大な支出超過とはなっていない。</p> <p>また、校長裁量経費により、教育研究活動の活性化を図るための競争的環境を創出し、教育研究活動に対し、適切な資源配分を行っている。</p>	4	<p>現状分析のとおり、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されている。</p>	<p>運営費交付金算定ルール及び業務効率化により、高専機構からの配分予算額が毎年削減される中で、教育研究経費配分額の一定の確保を図っている。</p>	特になし	
	○学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。</li> <li>●財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。</li> </ul>	<p>財務等に対する外部監査として高専機構監事監査、会計検査院実地検査、また、内部監査として高専相互会計内部監査、本校職員による内部会計監査を行い、会計監査等を適切に行っている。</p> <p>また、高専機構は財務諸表を公表することが法律で義務付けられており、高専機構としての財務諸表等は、官報公告、高専機構ウェブサイト等により広く公表し、適切に実施している。</p>	3	<p>現状分析のとおり、財務に係る監査等が適正に実施されており、また、財務諸表等が適切な形で公表されている。</p>	特になし	特になし	

評価項目	評価基準	観 点	現状分析	分析結果	根拠理由	優れている点	改善を要する点	改善策
⑭管理運営に関する事項	○学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。	<p>●学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。</p> <p>●管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。また、危機管理に係る体制が整備されているか。</p>	<p>学校の目的を達成するため、校長を補佐する副校長、各主事、委員会等の役割を明確に規定し、副校長及び教務、学生、寮務の3主事を高松、詫間両キャンパスにそれぞれ配置している。また、管理運営に関する重要事項については、各種会議で審議・検討後、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定を行える体制となっている。</p> <p>管理運営に関する諸規程を、香川高専規則集として整備している。教職員は各種委員会に構成員及び陪席者として参画し、協同して学校運営に携わっている。</p> <p>危機管理に関しては、リスク管理室を中心に香川高専防災マニュアルに基づき、迅速かつ的確に対処する体制をとっている。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	特になし。	特になし。	
	○学校の目的を達成するために、高等専門学校活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が行われ、その結果が公表されていること。また、その結果を受け、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されていること。	<p>●自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、その結果が公表されているか。</p> <p>●自己点検・評価の結果について、外部有識者等による検証が実施されているか。</p> <p>●評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。</p>	<p>本校の活動の総合的な状況に対する自己点検・評価は、点検評価委員会が中心となって、自己点検評価項目及び評価基準に基づき実施し、その結果は、本校の活動成果報告書「年報」とともに、ウェブサイトにおいて公表している。</p> <p>学外の有識者の意見を学校の運営に反映させるため、外部評価委員会を定期的に開催し、自己点検評価結果について意見・提言を受けている。また、検証結果は、教職員全体で共有し、本校ウェブサイトにおいて広く社会に公表している。</p> <p>自己点検評価の結果について、機動的かつ効果的に推進することを目的として、平成27年度から新たに、各キャンパスの副校長、教務主事、専攻長等を構成メンバーとする企画評価室を設置し、PDCAサイクルによる学校運営を継続して推進するため中核的役割を果たしている。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	<p>学校活動の記録及び自己点検・評価の資料として年報を発行している。</p> <p>企画評価室を設置して自己点検・評価を機動的に実施できる体制を整備した。</p>	<p>毎年発行している本校の活動成果報告書「年報」について、内容を精査するとともに、学内各種委員会の活動内容をPDCAに沿って報告するなど改善が必要である。</p>	<p>企画評価室が中心となって年報の内容を検討する。</p>
	○学校の目的を達成するために、外部有識者等の意見が適切に管理運営に反映されていること。また、外部の教育資源を積極的に活用していること。	<p>●外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。</p> <p>●学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用しているか。</p>	<p>外部評価委員会における外部有識者からの意見・提言を管理運営に反映し、改善を行っている。</p> <p>単位互換制度、「戦略的技術者育成アドバンスドコース」、「香川高専グローバル・エンジニア研修プログラム」、「企業技術者等活用プログラム」等、国内外の機関を教育資源として活用している。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	OB人財バンクや企業技術者等活用プログラムなど、多数のプログラムを企画、活用している。	特になし。	
	○高等専門学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。	<p>●高等専門学校における教育研究活動等の状況や、その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。</p>	<p>本校の教育研究活動の状況やその成果は、ウェブサイトや発刊物さらには各種メディアにより地域社会に情報を発信している。</p>	3	現状分析のとおり、評価基準を満たしている。	ホームページだけでなく、双方向型ネットワーク（ICTオープンキャンパス）を開設し、広く情報発信している。	特になし。	

段 階	評価水準
5	特に優れている
4	優れている
3	水準に達している
2	改善の余地がある
1	改善を要する